

目次

はじめに …… 3



外国人保護者の声

外国人保護者から見る日本の学校プリント …… 12

☞COLUMN☜ 学校からのあるお知らせ …… 26

日本人にとっての「常識」は
外国人にとっての「非常識」 …… 28

☞COLUMN☜ 日本の小学校とのコミュニケーション
の難しさ …… 48

外国人保護者の気づきと提案 …… 50

☞COLUMN☜ 外国人保護者が PTA 役員を
うまくこなすために …… 63



学校教育現場の先生の声

日本語指導側から見る外国人保護者の
困った行為 …… 66

外国人保護者に学校のことを
伝えるコツ …… 71

外国人保護者と地域、学校との連携 …… 78

小学校における外国人児童支援の 現状と今後への提案	83
学校プリントの伝統的価値と これからの役割	89
学校教育学から見る学校と 外国人保護者のコミュニケーション	112



Part 3 外国人保護者を支援する視点から

学校プリントを読む支援をする前に 知っておくこと	138
学校プリントに現れる 特徴的な語と文法	154
学校文書をシリア出身の保護者と 一緒に読む	170
マイナスを埋めるだけではなくて —— 教室を多様な音でいどる活動をしよう ——	183
COLUMN 学校プリント作成時のチェックリスト —— 配る前に確認を ——	198
多文化共生社会の構築に向けて	200

付録	207	<ul style="list-style-type: none"> ■学校カルチャー語彙に関するアンケート調査（2016年実施） ■学校プリントの読む方法に関するアンケート調査（2015年実施） ■中国人家庭における学校カルチャー語彙の使用状況 ■外国人向けの情報作成及び発信のためのチェックリスト ■学校プリントのサンプル 改善例
----	-----	--

索引	228
----	-----

役立つ情報一覧	231
---------	-----



外国人保護者の声

外国人保護者から見る日本の学校プリント

✎COLUMN✎学校からのお知らせ

日本人にとっての「常識」は外国人にとっての「非常識」

✎COLUMN✎日本の小学校とのコミュニケーションの難しさ

外国人保護者の気づきと提案

✎COLUMN✎外国人保護者がPTA役員をうまくこなすために

外国人保護者から見る 日本の学校プリント

李曉燕（九州大学）

1 日本の紙のツール vs 海外のデジタルツール

21世紀に入って日常生活でもっとも便利になったことの一つは、「脱紙化」でしょう。例えば同窓会を企画する場合は、昔は手紙か葉書に書いてポストに出し、相手からの返事を待たなければならず、参加者を把握するのに少なくとも数日間が必要でした。今はメールやSNSでメッセージを送ると即時にコミュニケーションができるようになりました。しかし、こうした世の中のコミュニケーションの「脱紙化」にもかかわらず、日本の学校で保護者とのコミュニケーションツールとして使われているのは主に紙媒体の「学校プリント」というのが現状です。

学校と保護者間のコミュニケーションツールについて、海外在住の日本人保護者を対象にアンケート調査（李，2016）を通じて、海外諸国での学校と保護者との間のコミュニケーションツールと日本のそれとを比較を試みました。例えば、ヨーロッパとオーストラリアでは、紙のプリントを配布することもあります。Eメールや電子掲示板が多く使われています。中国在住の日本人保護者によると、プリントよりもWeChat（中国のSNS）がよく使われています。そして、海外の学校の先生によれば、子どもは連絡事項をしっかり記憶して保護者に伝えようとし、保護者も分からなければ子どもに聞けば解決できることが多いです。

プリント配布に際しての各種ツールについては、上記の調査によると、海外在住の日本人保護者の方々からそれぞれ特徴が挙げられました。メールや電子掲示板やSNSで伝えてもらう方が紙に比べると無駄がなく、文

日本人にとっての「常識」は外国人にとっての「非常識」

李曉燕（九州大学）

1 学校カルチャー語彙が難しい

外国人保護者にとって学校プリントのどこが分かりにくいかを明らかにするために、平成 24 年度から 26 年度にかけて兵庫県神戸市、大阪府大阪市、福岡県福岡市、福井県坂井市の四つの自治体から延べ 810 枚のプリントを収集してデータベース、「学校お便りコーパス」を作りました。このデータベースは筆者の個人ウェブサイト（www.lixiaoyan.jp）で公開されています。

このデータベースによって品詞ごとに出現頻度および共起関係を分析することができます。例えば、学校プリントにおける名詞の出現頻度上位 20 語を見てみましょう（表 1）。「人参」、「給食」、「牛乳」、「醤油」など食育に関する語が多いです。これらは日本の学校プリントに見られる特徴的な言葉です。しかし、辞書を引けば理解できる上、インターネットで検索すれば実物の写真を見ることもできるので、外国人保護者に特に指導するまでのことはないと思います。

表 1 学校お便りによく出てくる名詞

出現頻度	見出し語	出現頻度	見出し語	出現頻度	見出し語	出現頻度	見出し語
1	日（ニチ）	6	人参	11	金（キン）	16	学習
2	月（ガツ）	7	給食	12	保護	17	緑
3	会	8	牛乳	13	児童	18	御飯
4	学校	9	醤油	14	玉葱	19	年（ネン）
5	学年	10	委員	15	砂糖	20	年度

外国人保護者の気づきと提案

李曉燕（九州大学）

1 多言語の活用—外国人家庭では学校カルチャー語彙をこう使っている—

日本の小学校に入学した娘が高校生になり、筆者の日本での保護者歴はかれこれ10年を超えました。最初のうちは学校プリントの内容を読み取るのに毎日神経を使っていましたが、いつの間にか余裕を持って学校プリントが読めるようになりました。毎日、特に金曜日に下の子どもが大量のプリントを持ち帰ってきますが、一瞬で「要保存」、「一部メモ」、「捨てて良い」と見分けています。

日本在住の外国人家庭の多くは、母語維持と母語継承のために家庭内で日本語でなく母語を使っています。ただし、日本社会で生きていく以上、日本語のできない親はともかく、一般的には家庭用語を全て母語にするのも難しいところがあります。学校カルチャー語彙は、外国人家庭でも全て母語に置き換えているところはないようです。筆者は、中国人の保護者3人（いずれも来日10年間以上、日本語力上級）を対象に、学校カルチャー語彙について家庭でどのような言葉で表しているか調査しました。その結果を以下に示します。



学校教育現場の先生の声

日本語指導側から見る外国人保護者の困った行為

外国人保護者に学校のことを伝えるコツ

外国人保護者と地域、学校との連携

小学校における外国人児童支援の現状と今後への提案

学校プリントの伝統的価値とこれからの役割

学校教育学から見る学校と外国人保護者のコミュニケーション

日本語指導側から見る外国人保護者の困った行為

李曉燕（九州大学）

「使用後の水着を布の袋に入れるの?!」、「持ち物の箱は（ビスケットの箱を想定したが）段ボールを持ってきた!」、「（毎年必ず提出される）保健調査票も家庭調書もまた提出してないんだ」と外国人保護者の行動に頭を抱えている教育現場の先生は少なくないでしょう。筆者は福岡市公立小学校に設置されている日本語指導集中教室（拠点校）の日本語教師、及び九州地域の日本語指導サポーターにインタビューを行いました。そして、学校とのコミュニケーションに支障が生じる恐れがあると考えられる外国人保護者にある行動をまとめてみました。

もちろん、外国人保護者の中にも、来日した早い時点から日本の教育システムを理解して、日本人保護者と同じように学校への対応ができている人もたくさんいます。「外国人保護者」という一括した表現は、外国人にはこのような傾向があるというステレオタイプな見方につながるおそれがありますが、それは筆者の本意とは全く逆です。この章で外国人保護者について挙げることは、インタビューの先生たちが日頃の教育現場でぶつかったこと、違和感を覚えたこと、またコミュニケーションがうまく取れなかったことを分類してまとめた行動パターンです。これから外国人保護者を支援する方、これから日本で子育てをしようと考えている外国の方に少しでも参考になることを目指しています。以下、協力者の話を「日本人教師の声」、その考えられる原因・理由を「外国人保護者の声」に分けてまとめていきます。

外国人保護者に学校の ことを伝えるコツ

平山智子（小学校日本語教室教諭）

筆者は、私の小学校に入学および転入してきた日本語指導の対象児童に、学習や生活面の支援をしている教諭です。仕事の内容は、学習面では対象児童の日本語指導や日本語の表現を基本にした教科指導、生活面では児童が学校生活に適應するための指導、それから担任や学校の職員が外国人保護者とスムーズに連携していくための支援です。

外国籍の児童や保護者が日本の学校生活に適應していくための支援内容は幅広く、日々様々な出来事が起こる中で、一部ではありますが、これまでにしてきたこと、そして今後も私たちにできることを述べたいと思います。

1 多様な文化的背景を持つ児童の適應指導

日本に来たばかりの対象児童やその保護者は、言葉を始め、自国の学校や自国での生活と異なる習慣に適應していくために、多かれ少なかれ戸惑いや不安を感じています。ですから対象児童が学校生活をしていく上でも、地域社会で生活していく上でも、日本人との摩擦や誤解をさけるために、私たちは様々なアドバイスをしていく必要を感じています。

日本で生活している私たちにとっては当たり前のことでも、それらが日常ではない外国から来た児童や保護者には違和感があるのではないのでしょうか。不慣れな事象に対してどう判断し、どのように行動すればよいのかわからず、自国と同じように振る舞ったことが原因で、様々な問題が生じます。ですから、私たち日本語指導教員は、彼らが日本に来た当初からその後かなりの期間に渡って、児童生徒の学習面の指導だけでなく、生活面

外国人保護者と地域、学校との連携

大塚佳英（日本語指導員・地域ボランティア）

1 連携の必要性

「子どもが学校で上手くいっていない。親としてどうしていいかわからない、相談できる人がいない」。…学校へ日本語指導員として派遣された初日、私は担当児童の外国人保護者から涙ながらに訴えられました。子ども達が安心して学ぶために、まずは「保護者の精神的な安定」が不可欠ではないのか。私は当時「学校サポーター」という立場もあり、すぐに小中学校の先生方やPTA、民生委員、非営利団体の方々へこの状況を伝え、さまざまな意見を共有し考えました。

問題の原因は何か。「学校は伝えたつもりでも外国人保護者には伝わっていない、またその逆も然り。外国人保護者から学校への意思伝達方法がわからない、など学校と外国人保護者のミスコミュニケーションの積み重なりではないか。」「日本人と外国人の文化的・宗教的な考え方へのお互いの理解不足ではないか。」「地域で外国人保護者は孤立していないか。」「親子のコミュニケーションはどうか。」といったさまざまな問題が考えられました。

2 連携の「場」を創る

このような状況を防ぐために、できる事は何か。学校と外国人保護者を繋ぐ「場」が必要ではないか。このような思いから、小学校の先生方の協力を得ながら個人ボランティア同志3名で始めたのが、外国人児童生徒保

小学校における外国人児童支援 の現状と今後への提案

池田芳江（元福岡市日本語指導担当教員）

この章では、小学校教師で外国人児童生徒への日本語指導を担当した経験のある者として、外国人保護者、児童生徒と、彼らを支援する学校側とのコミュニケーションのあり方について述べたいと思います。外国人児童生徒と保護者が来日まもない時期の支援を主にとりあげます。

この章ではお互いの理解を深めるためのイメージ作り及び具体的な方法作りの一助となることを願って、具体的な事例を7例紹介し、それらの経験を踏まえて、今後への提案を5つあげます。

1 支援の事例

1. フェイス・トゥー・フェイス（対面）で向き合う

外国人児童の保護者と、お互いの理解を深めるために「フェイス・トゥー・フェイス（対面）」で向き合う場を積極的に設けることが大切です。

小学校の入学式のときのことです。入学式当日に児童の保護者に配布されるプリント資料は、家庭環境調査票、保健調査票、給食費や教材費・PTA会費等の納付書など合わせると20～30枚にもなります。入学式の場でプリントを理解するのは、外国人保護者にとっては負担です。

そこで学校側は、入学式の前に外国人保護者に学校に来てもらい、プリントの内容を一つひとつ丁寧に説明して、その場で必要なことをプリントに記載してもらいました。このような支援によって、外国人保護者の負担を減らすことができます。ここから言えることは、学校側が、少しでも多

学校プリントの伝統的価値と これからの役割

竹熊尚夫（九州大学） 竹熊真波（筑紫女学園大学）

本章では、はじめに学校プリントの伝統的な価値や役割、目的や機能について整理します。つぎに、これからの時代に教員が学校プリントに対してどのような役割を果たすべきかを考えます。最後に、海外の例などを紹介しながら学校プリントの日本的な意味を掘り下げていきたいと思えます。

1 日本の学校プリントの伝統的価値

学校プリントには、学校通信、学年・学級通信のほかにも試験答案用紙に始まる様々な書類・文書があります。その中でも「学級通信」は、教師から直接子どもに渡され、教師が工夫を凝らし、学校や学級の姿を伝えようとするところから、最終的に保護者に届く配布物としてもっとも教育的な価値が高いといえます。そこでまず「学級通信」を中心に歴史的側面からその伝統的価値を考えてみたいと思えます。

日本では、明治維新以後に近代的学校教育が始まりましたが、その当時教師から生徒や親に情報を伝える方法は、教師から子どもへの口頭や口述、もしくは掲示板と言う形でしかありませんでした。

これが、謄写版、いわゆる「ガリ版」の登場によって一気に様変わりすることになります（図1）。こうした印刷革命にはじまる情報技術革命が学校のあり方を変え、学校と親との関係も変えてきたといえます。

「ガリ版」とは、蠟の付いた薄い原紙に鉄筆でまさに「ガリガリ」と削るように字や絵を書き込み（蠟の部分を削り取る）、インクの付いたローラーで削った部分を紙に一枚一枚謄写して作成する物です。明治から大正、昭和に入っても1960年代頃までの間、正規の出版方法や出版物以外

学校教育学から見る 学校と外国人保護者の コミュニケーション

多田孝志（金沢学院大学）

1 はじめに

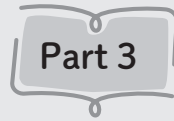
本章では、外国人子女・保護者と学校とのコミュニケーションギャップの問題を、学校教育全体の動向と関連づけて考えてみましょう。

1980年に神奈川県大和市南林間に大和市定住センターが開設され、1998年までの間、ベトナム戦争で生じたインドシナ難民に対する支援が行われていました。この間、私は教育委員会の要請を受け、数回にわたり、センターの支援活動に参加しました。その際、ベトナム、ラオス、カンボジアの難民定住者の方々が、言語や衣食、生活習慣等の違いに悩んでいることに気づかされました。その後も折に触れ、大和市を訪問し、同市が、外国人子女のための教育を重視した手厚い活動をしていることを知りました。

注目されるのは、外国人子女・保護者とのコミュニケーションにおけるサポートの手厚さです。8言語、19人を委嘱し、連絡文・通知文書等の翻訳を行い、保護者へ情報が正確に伝わるよう支援しています。

手引書「楽しい学校」は、外国人子女および保護者が日本の学校にスムーズに入っていけるように大和市教育委員会が作成しました。8言語翻訳で作成され各言語3部構成になっています。

内容を見ると、学校生活で悩んだり、戸惑ったりしたときの具体的な対処法、友達の作り方、学習の仕方など外国人子女・保護者の立場に立った



外国人保護者を支援する 視点から

学校プリントを読む支援をする前に知っておくこと

学校プリントに現れる特徴的な語と文法

学校文書をシリア出身の保護者と一緒に読む

マイナスを埋めるだけではなくて
—教室を多様な音でいろどる活動をしよう—

📖COLUMN📖学校プリント作成時のチェックリスト
—配る前に確認を—

多文化共生社会の構築に向けて

学校プリントを読む支援をする前に知っておくこと

本田弘之（北陸先端科学技術大学院大学）

この章では、長い間、外国人へ日本語の読解指導をしてきた筆者の経験から、外国人の保護者へ学校プリントを読み解くための日本語支援をする時の注意点をできるだけ具体的に説明していきたいと思います。

学校プリントの読解支援の時に気をつけなければならないことと、普通の日本語学習支援の異なっているところは、大きく2つあると思います。それは「日本の学校文化」を「翻訳」して伝えなければならないことと、「世界の他の言語にはない特異な日本語表記法」を理解してもらわなければならないことです。このうち前者については、この本の色々な箇所でも触れられていますので、この章では後者について詳しく説明したいと思います。それは「当たり前」のことなのですが、日本語を母語とする支援者には、十分理解されていないことだからです。

1 学校プリントの読解支援

多くの人にとって、外国語を学ぶことが「難しいこと」であることはいうまでもありません。しかし、外国語を2つ以上勉強したことがある人なら、言語によって「難しいところ」が同じではないことに気づいたのではないかと思います。たとえば、筆者はポーランド語やベトナム語を学ぼうとしたことがあります。どちらも早々とあきらめてしまいました。でも、あきらめた理由は、それぞれ違いました。ポーランド語は、名詞・形容詞の格変化と動詞の活用が複雑すぎて、覚えきれないと感じたからです。ベトナム語のほうは、発音と声調を聞きわけることがすごく難しく、あきらめてしまいました。

学校プリントに現れる 特徴的な語と文法

森篤嗣（京都外国語大学）

1 学校プリントに隠された傾向とは

学校プリントには何が書かれているのでしょうか。学校行事のお知らせ、給食の献立、風邪予防の呼びかけなど、その内容は非常に多様です。では、外国人保護者が学校プリントを読むことができるようになるためには、たくさん読んで慣れるしかないのでしょうか。実はそうではありません。学校プリントに限らず、ある一定の目的で書かれた文書には、何らかの傾向があります。この傾向は、学校プリントを作成している人が意識しているものもあれば、無意識であるものもあります。

本章では、実際に配布された学校プリントをデータとして、使用されている語彙と文法の側面から、学校プリントの傾向を明らかにしたいと思います。先に言うておくと、「この語／文法を知っていれば学校プリントが読めるようになる」ということまで言い切るのは難しいというのが正直なところです。しかし、学校プリントに隠された傾向を計量的に明らかにすることは、「学校プリントに何が書かれているか」を把握することにつながります。こうした研究で得られた知見を提供することで、外国人保護者の方やその支援をされる方にとって、学校プリント理解のヒントになればと期待しています。

学校文書をシリア出身の保護者と 一緒に読む

奥野由紀子（東京都立大学）

1 はじめに—シリアから来た家族—

みなさんはシリアという国を知っていますか。2011年に内戦が始まり、2022年現在、今もお終わったとは言えない状況です。内戦で、勉強をする機会や働く場所をなくした多くの人達がシリアを出て海外で移民や難民として暮らしています。日本の政府も2017年から5年間で100名の大学院生を「留学生」としてシリアから受け入れています¹。その他に民間の団体や大学独自の受け入れもありますが、日本では「難民」としての受け入れが非常に少なく、たとえ紛争から逃れて日本に来ている人であっても、ほとんどが難民認定²されません。紛争を逃れて留学生として来日している人の中には家族も一緒に来ている人も多く、子どもは6才になると日本の小学校に通うようになります。この章では、そのようなシリアから逃れて日本に学びに来たの保護者に対する日本語支援の一端を紹介したいと思います。そして、その活動の中で行った「学校文書を一緒に読む」という取り組みを通して、学校文書のどのような点が外国人保護者にとって難しいのか、どのように一緒に読んでいったのかについて具体的にみていきたいと思います。

-
- 1 シリア難民に対する人材育成事業「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム（Japanese Initiative for the future of Syrian Refugees：JISR（ジスル）」<https://www.jica.go.jp/syria/office/others/jisr/index.html>（2023年2月17日閲覧）
 - 2 2021年の日本の難民認定者数は74名、難民認定率は0.7%。「日本の難民・移民」公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 https://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/refugee_in_japan/（2023年2月17日閲覧）

マイナスを埋めるだけではなくて

— 教室を多様な音でいろどる活動をしよう —

山本冴里（山口大学）

1 ある意味、どうでもいいんですよ

数年前に、ある中学校の教頭先生と話していた時のことです。私はふと、その中学校に、外国にルーツを持つ生徒が何人くらい通っているのかと尋ねてみました。その時かえてきた答えがこれです。

——それは個人情報ですからね、聞けないし、聞かない。日本以外の国にいたかとか、親がどうか、他の言語がどうか、そういうことは、ある意味、どうでもいいんですよ。

にこやかに談笑していたのに、突然、色をなしてこんなふうに言われて、なにが起こったのか、とっさに理解できませんでした。同席していたもうひとりの先生が、背筋をのばして、「学校には関係がないことです」と付け加えます。私はたじろぎ、かろうじて「そうですか」と流して、話題は他にうつっていきました。それから数年たちますが、あの時の違和感は、今も私のなかにしっかりと残っています。そして、同時に感じた疑問は、むくむくと大きくなるばかりです。

ほんとうにそれは「個人情報」で、「個人情報」ならば決して触れてはいけないことなののでしょうか？「学校には関係がな」く——そればかりか、「どうでもいい」ことなののでしょうか？

多文化共生社会の構築に向けて

李曉燕（九州大学）

福岡市博多区吉塚に、外国人居住者との共生と共修を目指す「リトルアジアマーケット」があります。その近くにある西林寺の住職でこのリトルアジアマーケットのプロジェクトに関わっていらっしゃる方に、直接お話を伺ったことがありました。プロジェクトは2020年9月に経済産業省の「商店街活性化・観光消費創出事業」に採択され、3ヶ月後には吉塚商店街は「吉塚市場リトルアジアマーケット」としてリニューアルオープンしたということです。住職をはじめとする関係者の強いリーダーシップの働きだと思いますが、地元の温かい人情があったことも寄与しているでしょう。ただし、そのようなありがたい環境でも、外国人と一緒にマーケットを作るという話を聞くと、「それならもう行かない」という地域の方もいたそうです。

移民社会ではないとはいえ、労働力不足でこれからも外国人を受け入れざるを得ない日本社会で、外国人との付き合いは避けられません。「(外国人は) ルールを守らない、マナーが悪い、ゴミ出しが迷惑だ」という話をよく聞きます。しかし、先ほど話したリトルアジアマーケットでは、商店街のトイレを自ら毎朝掃除するミャンマー人がいました。周りの日本人と助け合ってバーを経営しているネパール人がいました。商店街の人々の心



吉塚リトルアジアマーケット

